

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

17 専門教科 情報

<目次>

I	「指導と評価の年間計画・評価規準の作成の手引き」	P 1～2
II	「指導と評価の年間計画」(情報産業と社会) <例>	P 3
III	「評価規準と単元計画」(情報産業と社会) <例>	P 4～5
IV	「学習指導案」(情報産業と社会) <例>	P 6

I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法、評価規準も含めて記述する。

2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨
…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとめりごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・内容のまとめりごとの目標
…学習指導要領の「内容」の(1)(2) …の大項目ごとの目標を記す。
- ・内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項
…内容のまとめりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

※「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく「章」とは必ずしも一致しない場合がある。

◎単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・単元ごとの目標…使用する教科書等に基づき単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。
- ・単元ごとの評価規準
…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」を単元の内容に即して具体化したもの。

※「単元」とは、ほとんどの教科書の「節」に該当するものである。

◎実際の授業ごとの「評価規準」「評価方法」「指導と評価の計画」を示す。

- ・学習活動における具体的評価規準と評価方法
…学習活動ごとに4観点別に示した評価規準と評価方法。「単元ごとの評価規準」を学習活動の内容に即して具体化したもの。評価方法については、学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。
- ・指導と評価の計画
…単元の目標を実現するために、授業ごとの「主題」と「主な学習活動」、「具体的評価規準との対応」を示す。「具体的評価規準との対応」は、上記の「学習活動における具体的評価規準と評価方法」に対応した番号を各観点の欄に記す。

単元ごとの指導と評価の計画<例>

1 科目『〇〇〇』の目標

〇〇〇〇〇

2 科目『〇〇〇』の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇

3 「〇〇〇」の目標

〇〇〇〇〇

4 「〇〇〇」の評価基準に盛り込むべき事項

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇

5 単元指導計画

単元名	〇〇〇〇〇	時間数	〇
-----	-------	-----	---

◇ 単元の目標

〇〇〇〇〇

◇ 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇

◇ 学習活動における具体的評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
① 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	① 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	① 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	① 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇
②	② 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	②	② 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

◇ 指導と評価の計画

授業番号	単位時間数	主題	学習目標と主な学習活動	具体的評価規準との対応(番号)				備考
				関	思	技	知	
1	〇	← 割当てる授業時間数を記す	単元の目標を実現するための具体的な学習活動の要点を記す	①			①	上記「学習活動における具体的評価規準と評価方法」の該当項目番号を記す
2	〇				①	②	②	

Ⅱ 指導と評価の年間計画(情報産業と社会) <例>

科目名：情報産業と社会

岐阜県立 ○○ 高等学校

目 標 【学習指導要領】		情報産業と社会の関わりについての基礎的な知識と技術を習得させ、情報産業への興味・関心を高めるとともに、情報に関する広い視野を養い、情報産業の発展に寄与する能力と態度を育てる。			関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	技 能	知 識 ・ 理 解
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】		<ul style="list-style-type: none"> ・社会の情報化が生活に及ぼす影響や情報産業の発展と社会とのかかわりなどについて取り上げ、情報産業の業務内容や役割及びそこで働く情報技術者の役割などについて理解させる。 ・情報技術者が日常的な業務を遂行するために必要となる情報技術として、ハードウェア、ソフトウェア及び情報通信ネットワークの基礎的な知識と技術を習得させるとともに、学校や生徒の実態に応じて適切なものを選択し実習を通して実際に活用できるようにさせる。 ・情報技術者の職務内容とそれを遂行する際に求められる業務上の責任について、日常の業務とかかわらせて理解させる。 ・情報産業で実際に起こった具体的な事例を取り扱い、情報社会において適正な行動を行うための基になる考え方や態度を育成させる。 						
月	単元名	使用教科書項目	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法			
4月	授業ガイダンス		3	・学習内容や学習方法の確認とコンピュータの習熟度や技能の調査、実習室の利用方法を説明する。	行動観察	○		
	1 情報化と社会							
	(1) 社会の情報化	情報の処理と情報システム	3	・情報機器や情報通信技術などの発達が社会生活に大きく影響していることを理解する。	行動観察 ノート ワークシート	○	○	○
5月		情報伝達の変遷	3	・情報を伝達する手段が、社会の情報化の進展に伴い、どのように移り変わってきたかを理解する。				
		情報社会の未来	3	・情報機器の発展による情報社会の未来について考察する。				
6月	(2) 情報化の進展と情報産業の役割	前期中間考査	1		考査			○
		情報産業の種類と役割	3	・情報産業が社会の情報化を支えて発展させてきたことや、望ましい情報社会の形成に重要な役割を果たしていることを理解する。	ノート ワークシート	○	○	○
		情報技術者の役割	3	・情報産業の業務内容や業務範囲等の変化や、情報産業で働く技術者の役割を理解する。				
7月	2 情報産業と情報モラル							
	(1) 情報技術者の業務と責任	社会人としての心構え	3	・情報技術者が担っている社会的責任の理解を通して、職業人として適切に業務を遂行することの重要性を理解する。	行動観察 ワークシート	○	○	○
8・9月		情報技術者の義務と責任	2	・日常の業務とかかわって情報技術者の義務や責任、職業倫理を理解する。	ノート	○	○	○
	(2) 情報モラルと情報セキュリティ	情報社会の問題点	3	・知的財産や個人情報の取り扱いなどの問題点を理解し、情報社会で適正な行動を行うための基になる考え方や態度を身に付ける。	行動観察 ワークシート	○	○	○
		個人情報	3	・情報リスクの存在を理解し、適切に対応するための基礎的な知識と技術を身に付ける。	ノート	○	○	○
		情報モラル	3					
		前期末考査	1		考査			○
10月		情報セキュリティ	3	・情報セキュリティ対策の必要性と重要性を考察する。	ノート	○	○	○
	(3) 情報産業と法規	情報産業と知的財産にかかわる法規	3	・情報産業に関わる法規の制定の趣旨や情報産業とかかわりについて理解する。	ノート ワークシート	○	○	○
		情報産業にかかわる法規	3	・具体的な事例を通して情報技術者に求められる法令遵守の考え方を身に付け、適切な行動力を身に付ける。				
11月	3 情報産業と情報技術							
	(1) 情報産業を支える情報技術	データ表現	3	・コンピュータ内で扱われるデータ表現に関する基礎的な知識を理解する。	行動観察 ワークシート	○	○	○
		ハードウェア	3	・ハードウェアに関する基礎的な知識と技術を習得し、事例を通して情報技術が情報産業の発展に寄与していることを理解する。	ノート	○	○	○
		ソフトウェア	2	・ソフトウェアに関する基礎的な知識と技術を習得し、事例を通して情報技術が情報産業の発展に寄与していることを理解する。				
12月		後期中間考査	1		考査			○
		情報通信システム	3	・情報通信ネットワークに関する基礎的な知識と技術を習得し、事例を通して情報技術が情報産業の発展に寄与していることを理解する。	ノート ワークシート	○	○	○
1月	(2) 情報産業における情報技術の活用	情報の収集	2	・情報の分類について理解し、情報通信ネットワークを利用した、情報の収集に関する知識と技術を身に付ける。	行動観察 ワークシート	○	○	○
		情報の処理と分析	2	・表計算ソフトウェアを活用した情報の処理と分析方法に関する知識と技術を身に付ける。	ノート 課題	○	○	○
		情報の表現	2	・文字や画像などの情報を分かりやすく伝えるための表現方法を理解する。				
2月		プレゼンテーションによる情報の発信	4	・効果的なプレゼンテーションの方法を理解し、プレゼンテーションソフトウェアを利用したスライドの作成方法を身に付ける。				
		Webページによる情報の発信	4	・WEBページの作成方法に関する知識と技術を身に付ける。				
3月		学年末考査	1		考査			○
合計時間数			70					

Ⅲ 評価規準と単元計画（情報産業と社会）〈例〉

1 『情報産業と社会』の目標

情報産業と社会とのかかわりについての基礎的な知識と技術を習得させ、情報産業への興味・関心を高めるとともに、情報に関する広い視野を養い、情報産業の発展に寄与する能力と態度を育てる。

2 『情報産業と社会』の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報産業に興味と関心を持ち、情報技術者として情報に関する幅広い視野と情報活用能力を身に付けることに意欲的に取り組み、情報産業の発展に主体的に寄与しようとする態度を身に付けている。	情報化と情報産業の発展によってもたらされる現代社会への影響や情報モラル等の必要性、情報産業の諸課題や情報技術者の役割や責任について思考を深め、適切に判断し、表現している。	情報技術者が業務を遂行するために必要となる基礎的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。	情報技術者に求められる基礎的な知識を身に付け、その役割や業務内容、情報モラルの必要性や情報セキュリティの重要性について理解している。

3 「情報産業と情報モラル」の目標

情報技術者の業務内容と遂行する際に求められる責任、情報技術者が守らなければならない情報モラルと情報セキュリティ、情報や個人情報の保護、著作権などの知的財産及び情報セキュリティ対策に関わる法規などの情報産業にかかわる法規について基礎的な知識と技術を習得する。

4 「情報産業と情報モラル」の評価基準に盛り込むべき事項

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報技術者の使命と責任、情報モラルと情報セキュリティ、情報産業に関わる法規などに関心をもち、情報技術者の社会的責任を踏まえ、職業人として法規を守って正しく行動する態度を身に付けようとしている。	情報技術者が担っている社会的な責任、情報セキュリティ対策の必要性と重要性について考え、情報モラルや関連する法規に基づいて適切に判断し、表現している。	情報モラルと情報セキュリティ、情報産業に関わる法規などを踏まえて、情報リスクに適切に対応するために必要な基礎的な技術を身に付け、目的に応じて適切に利用している。	情報技術者に求められる責任、守らなければならない情報モラルと情報セキュリティ、情報産業に関わる法規について基礎的な知識を身に付けている。

5 単元指導計画

単元名	情報産業と情報モラル 情報モラルと情報セキュリティ ソーシャルネットワーキングサービスの利用規約を考案しよう	時間数	5
-----	---	-----	---

◇ 単元の目標

ソーシャルネットワーキングサービス（以下「SNS」という。）について、その特徴を捉え、グループ単位でSNSの利用規約を考案する活動を通して、情報社会における不正アクセスや不注意などによる情報の漏洩、滅失、棄損などの情報リスクの存在について理解を深めさせるとともに、情報技術者として正しい行動がとれる態度を養う。

◇ 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
SNSの利用規約を通して、情報セキュリティ対策に関心をもち、情報技術者として正しく行動する態度を身に付けようとしている。	SNSの利用規約を通して、情報セキュリティ対策の必要性と重要性や情報リスクについて考え、情報技術者として適切に判断し、表現している。	SNSの利用規約を通して、情報リスクに適切に対応するために必要な情報セキュリティの管理に関する基礎的な技術を身に付け、適切に利用している。	SNSの利用規約を通して、情報セキュリティや情報リスクに関わる基礎的な知識を身に付けている。

◇ 学習活動における具体の評価規準と評価方法

関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解	
①	SNSの利用規約の重要性に関心をもち、各種SNSの利用規約について主体的に調べ、ワークシートにまとめている。	①	不正アクセスや情報の漏洩、滅失、棄損などの情報リスクの種類に応じた利用規約を考えている。	①	SNSの利用規約に沿った利用者登録ができ、適切なプロフィール設定をしている。	①	実際のSNSにどのような利用規約が規定されているのか、その特徴と内容を理解している。
	行動観察・ワークシート		ワークシート		PC入力内容		ワークシート
②	グループ協議や各グループの説明において、利用規約の必要性について積極的に意見を述べたり、考えようとしている。	②	個人のプライバシー侵害や著作権などの知的財産の不正利用を回避するためのソフトウェア機能を考えている。	②	ユーザIDやパスワードについて、情報セキュリティに配慮して管理している。	②	SNSの利用規約には、不正アクセスや情報の漏洩防止など、情報リスクへの対応が含まれていることを理解している。
	行動観察		ワークシート		PC入力内容		ワークシート

◇ 指導と評価の計画

授業番号	単位数	主題	学習目標と主な学習活動	具体の評価規準との対応(番号)				備考
				関	思	技	知	
1	1	SNS利用規約の調査	SNSの利用規約にはどのような事例があるか、Webサイトで調べ、ワークシートにまとめる。	①			①	
2	1	実習用SNSの操作	実名で投稿した記事とニックネームで投稿した記事の違いについて考える。 SNSからの脱会処理をする。			① ②		
3	1	SNS利用規約の考案	グループにより、部活動や生徒会活動など、身近な題材を用いてSNSの名称とサービスを定義し、利用規約を考案する。	②	①			
4	1	SNS利用規約の発表	SNSの利用規約として必要な事項をまとめ、考案した内容を説明するとともに、他のグループの説明を聞き議論を深め、考案した利用規約の見直しをする。	②	①			
5	1	SNSにおける情報リスクについて考える	プライバシーの侵害や著作権などの知的財産の不正利用を回避するためのソフトウェア機能を考える。 プライバシーの侵害や著作権保護に関する事項について実際の利用規約に照らして確認する。		②		②	

IV 学習指導案（情報産業と社会）〈例〉

科目名	情報産業と社会		指導者	〇〇 〇〇		実施日	△△年△△月△△日（△）			
指導クラス	〇年〇組 〇〇名（男子〇名、女子〇名）					場所	〇年〇組教室			
単元名	情報産業と情報モラル 情報モラルと情報セキュリティ			3 時間目 / 5 時間数						
主題	ソーシャルネットワーキングサービスの利用規約を考案しよう									
本時間の学習目標		<ul style="list-style-type: none"> グループ協議や各グループの説明において、利用規約の必要性について考え、積極的に意見を述べる。 不正アクセスや情報の漏洩、滅失、棄損などの情報リスクの種類に応じた利用規約を考える。 								
段階	分	内容・ねらい	学習活動	指導上の留意点	評価					
					具体的評価規準との対応				評価方法	
					関	思	技	知		
導入	5	事前学習内容の確認	事前に調べて記入したワークシートから各種SNSページの利用規約を確認する。	積極的な意見交換を促すよう説明する。						
		本時の目標の提示	本時の学習活動である、身近な団体のSNSページを考え、必要な利用規約を挙げ、なぜ必要なのかを話し合うことを理解する。							
展開	40	グループ協議 ・ 題材の決定	① 部活動や生徒会活動、委員会活動、HR活動など、自分たちの身近にある集団からSNSページを作成すると仮定し、題材を選択する。	自由に意見を出し合えるような雰囲気づくりに努める。 ※1	②				行動観察	
		・ 名称とサービスの定義	② ①で選択した題材についてその名称とサービスを定義する。	付箋等を活用し、意見をまとめやすいよう配慮する。	②				行動観察	
		・ 利用規約の考案	③ 利用者がサービスを安全に利用できるようにするための利用規約を考案する。	様々な情報リスクを踏まえ、必要な利用規約が考えられるよう助言する。話し合った内容を各自ワークシートに記入させる。	①				ワークシート	
		・ 発表準備	④ 話し合った内容から発表用資料を作成する。	携帯用ホワイトボード等を有効に活用させる。 ※2						
まとめ	5	本時のまとめ	グループ協議の内容を振り返り、様々な情報リスクと利用規約の必要性について確認する。	グループごとにまとめた内容から理解させる。						
		次時の確認	ワークシートの見直しと提出	必要に応じて次時に使用する発表用資料も回収する。						

※1 あらかじめ題材を決めておき、同じ集団に所属する生徒ごとのグループとしておく方法も考えられる。

※2 携帯用ホワイトボード等を活用することで、グループ協議のまとめや発表を効率的に行う工夫が考えられる。